

2016年8月22日(月)

神奈川新聞 教育面掲載

ザ・チャレンジ

ザ・チャレンジ

(大学受験編)

グローバル化や情報化、少子高齢化による人口減少など国内外で大きな社会変動が起きていることを背景に、教育に求められるものも変化し、現在はアクティブ・ラーニングの導入が進んでいます。

アクティブ・ラーニングとは「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び」のこと。従来の講義や授業を一方向的に聴くといった受動的な学習からディスカッションやグループワーク、体験学習などを通して学生が能動的に学習することへの転換を目指しています。これは文部科学省が「高大接続システム改革会議」で掲げている通り、「不透明な時代であるからこそ主体性を持ち、知識だけでなく新たな価値を見いだす力」を重要視しているためです。「高大接続改革」には大学入試改革が含まれており、アクティブ・ラーニングの導入に合わせて、大学入試で求められる能力も同時に変えることを意味しています。いくらア

Q. 新しい入試に対応するには？

クティブ・ラーニングを目標に掲げても、肝心の大学入試が従来の知識偏重のペーパー試験のままでは、高校の授業は変わらないはず。そこで、大学入試と一体的に改善しようと高校にもアクティブ・ラーニングの導入が求められています。

現行のセンター試験が廃止され、2020年から「高等学校基礎学力テスト(仮称)」や「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」を導入することが計画されているため、これらに各大学の個別試験を加えると3種類の試験が存在することになります。「知能・技能」や「思考力・判断力・表現力」、さらには「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価しようとしているのです。「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」では「知識・技能」だけでなく、「思考力・判断力・表現力」を中心に評価。そこではマークシート式の問題を改善し、記述式の問題の導入を検討しています。一

方、各大学の個別試験においては、従来の一般、AO、推薦入試の区分を廃止し、アドミッション・ポリシーに基づき、「主体性・多様性・協働性」などを多元的に評価するとしています。したがって、面接や推薦書などの方法を用いて評価されることが考えられます。

新しい入試に対応するために、教師の板書をノートに写すといった従来の授業形態から、教科としてアクティブ・ラーニングを取り入れた参加型授業に取り組むなど、授業のあり方を見直す動きが高校でも始まりつつあります。これからは知識の暗記や再現、反復だけでなく、総合的な能力をバランス良く身に付けましょう。

(CG高等館 東進衛星予備校)

※幼児教育から各段階の進学対応まで、多様な「学び」の情報を紹介。次回は小学校受験編。

A. 総合的な能力を身に付けよう



東進TIMES 8.1号
効果的な過去問演習法を大公開！